

⑦ 石田茂作

☆中学校一年 二期実施

主題 学問への信念

A(4) 希望と勇氣、克己と強い意志

一 醸成したいおかげの心

北野廃寺跡発掘の手掛かりとなる研究に取り組んだ岡崎の先人から学ぶ、強い信念

二 教材 「仏教研究へのこころざし」

『岡崎市現職研修委員会道徳部自作資料』

茂作は、幼少から病弱でしたが、仏教に対する姿勢は特別でした。恩師からの励ましの言葉「自分の目標をもて」を胸に、学問に打ち込み、全国の寺院跡の発掘を手掛けました。その後、岡崎でも北野廃寺跡の発掘を成し遂げました。奈良博物館長を経て「法隆寺再建説」の提唱を確固たるものにし、仏教考古学という学問分野を切り開いて日本の第一人者となりました。

三 本時のねらい

- (1) 体が弱いというハンデに負けず、追究を続け、仏教考古学という学問を切り開いた茂作の信念の強さに気付かせる。
- (2) 強い意志をもって自分の興味、関心のある分野について追究していかうとする心を育てる。

四 発問例

発問① 「悩みながらも、茂作が仏教研究を続けてきたのは、なぜだと思えますか」

- ・自分の好きなことを勉強したい
- ・体の弱い自分にもできるはず
- ・せっかくだか助かった命だから、悔いなく生きたい

発問② 「自分の指示で柱の穴を掘りあてることができたとき、茂作はどんな気持ちだったでしょう。」

- ・もっと勉強したい
- ・歴史のことが分かって楽しい
- ・自分がやってきたことは間違いではなかった
- ・続けてきてよかった

補助発問 「茂作の立派だと思うところは、どんなところですか。」

- ・自分の好きなことを続けてきたところ
- ・夢を追い求めているところ
- ・自分の研究分野で大きな成果を挙げたところ

発問③ 「何かをやり遂げるために大切なことは何でしょう。」

(中心)

- ・目標をもって、努力し続けること
- ・困難なことがあってもあきらめないこと
- ・やろうと決めたことは、最後までやり切ること

(自覚) 「茂作の姿から、自分に生かしたいことは何でしょう。」

- ・勉強を粘り強くやっていきたい
- ・目標を見つけて、努力したい
- ・「絶対にやるんだ」という強い意志をもちたい